

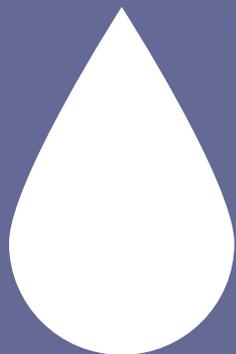


本マップは東温市、東温市観光物産協会、愛媛大学法文学部人文学科観光まちづくりコース（観光文化系）が連携して制作しました。制作にあたり、地域に学ぶ「Toon City Tourism Study Workshop」を開催し、1年間かけて成果をまとめました。Study Workshopでは、東温市の地域資源についてディスカッションし、現地での調査をもとにマップを作成しました。この木の葉は、今回参加者が見つけた東温市の魅力ある資源ひとつひとつを指しています。みんなの手で守り大切に育てていきたいと思っています。

本マップは、東温市観光物産協会「東温版エコツーリズム・エコミュージアム実現事業」経費、愛媛大学 法文学部人文学科演習・実践授業実施経費を使用いたしました。

東温市 かわのうち MAP

みずと
溪谷のさと



2013.02 2014.09増刷

本マップは、現地調査を行った当時のスタッフの思いや感じたことを生かすため、現在は変わった景観なども当時のままで紹介しております。

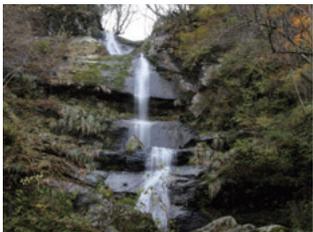
Toon City Map in Kawanouchi

東温市 河之内地区

東温市の東に位置する音田、日浦、狩場、大屋敷、峠を越えた谷に位置する土谷を河之内と呼んでいます。河之内、則之内、井内の旧三内村で採れる米は「三内米」と呼ばれ、おいしいお米として昔から有名で、美しい棚田と里山風景が広がる穀倉地帯です。

惣河内神社は延暦二十二年（西暦八〇三年）河之内の総鎮守として開かれました。雨滝にあった雨滝三島神社が本堂に合祀されており、雨乞い・雨止めを行っています。湯水時期には松山市公営企業局の職員が毎年雨乞い祈願にやってくるそうです。

河之内は俳句の里でもあります。惣河内神社の境内には俳句で有名な一畳庵があります。宇和島出身の松根東洋城が社務所の一畳を借りて寝泊りし一畳庵と名付け、半畳分の所に机を置いて弟子たちに俳句を教えていました。松根東洋城は夏目漱石の弟子で小説三四



郎のモデルは東洋城だといわれています。先々代宮司の佐伯巨星塔（惟揚（これあき）、東洋城の弟子となり、東洋城を社務所の一角に迎えて共に起居しました。東洋城は一畳庵の障子に穴をあけて冬桜を見るのが好きで百日桜と名付けて楽しんでいました。巨星塔は、一畳庵から見る景色が好きだった東洋城が手紙で庭のことを訪ねた時のことを「一畳庵、ひたき来るかと、便りかな」と詠み、その句碑が庭の一角建っています。

河之内音田地区から黒森峠を越えて久万高原町に至る国道四九四号線の沿道には、正岡子規や夏目漱石が観瀑に訪れた白猪の滝や唐岬の滝があります。白猪の滝と唐岬の滝には、その美しい情景を詠んだ子規や漱石の句碑が建立されています。

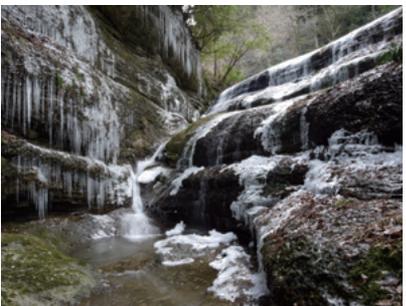
この国道四九四号線は、日浦出身の県議員・近藤金四郎翁が私財をなげうって尽力し、昭和三〇年七月三十一日に開通しました。

表川にある雨滝は松山藩の公儀雨乞い所だった場所です。松前から「おたさん」が海水をここまで運び、滝壺でお面写しの雨乞い行事を行っていました。音田、徳吉の約十ヘクタールの水田を潤す窪野淵の井手は、表川に架かる清水橋の下にある窪野淵の岩をくり抜いて作られました。

この地域では、地元住民が各地区をフィールドワークでまわり、故郷の再発見に取り組んだり、雨滝より下流地域をホタルの里と名付けて整備したり、地域づくりに取り組んでいます。



▲一畳庵に降り積もった雪は陽の光に反射して美しい冬景色を演出します



よんじゆ

美しい日本の故郷へ



1 札幌の三叉路に旧金毘羅街道の道標がみえたら、そこが出発地点です。「金毘羅大門より25里」を指しています。南へ行くと土佐街道です。

歩く準備は万端ですか？



2 土谷集会所は元土谷小学校の跡地。中山越えに架かっていた曙橋のミニチュアがあります。4月第1日曜日には「源太桜祭り」が開催されます。



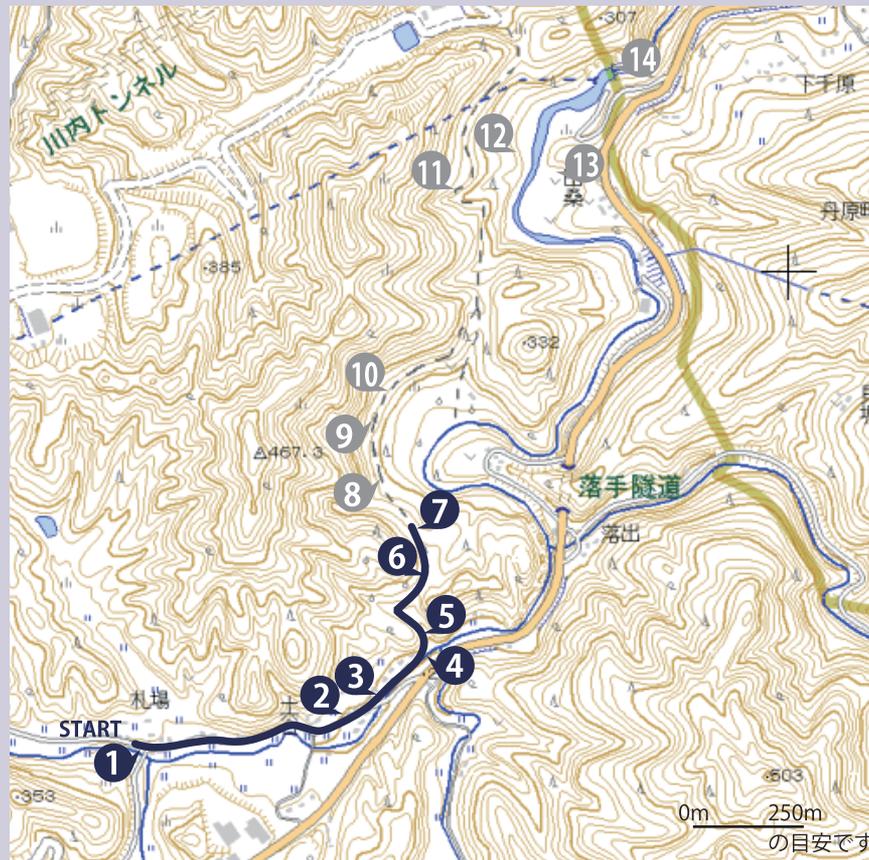
3 元文4年（1739年）に建立された金毘羅街道の里塚が復元されています。ここは、松山市街地「札の辻より6里」（約24km）にあたります。



4 小峠入口の近くには、中山越えに架かっていた曙橋が復元されています。地元の人たちが当時と同じ大きさの橋をつくりました。街道から外れますが、ぜひ渡ってみましょう。



屋根付き橋ですね。



金毘羅街道では、旧三内村から旧桜樹村（現在の滑川）に至る山道を「中山越え」といいます。この古道を歩いて、まざまな歴史にふれながら、源太桜を目指しましょう。

山道では、自分の体調に合わせてゆっくり歩きます。とく小峠では、脇道に入らず、道しるべにそって進みましょう。この道は、大切な歴史資源です。みなさんで大切に守っていきましょう。

古道を歩いて 源太桜に会いに行こう

5 小峠（こど）の入り口を指す道標がみえてきました。ここからいよいよ山道に入ります。険しい登り道が見つめます。ゆっくり登りましょう。



6 小峠への急な山道を登りきると、峠茶屋跡に着きます。昔は、往來を旅する人でにぎわっていたそうです。



かつてと変わらない山道。当時の旅人の様子がしのべれます。

7 土谷小学校が廃校になるまで、小学校に通う子供たちが頭を撫でていたというお地蔵さん。今も変わらずやさしいまなざしで人々を見守っています。



ここで一休みしましょう。後半につづきます。

8

さあ、出発しましょう。
かつて江戸時代には約8000本の桜が
植えられていましたが、大正初期に
おこった千原鉱山の煙害でほとんどが枯れ
てしまいました。



古株が残って
います。

9

かつてのような桜並木の金毘羅
街道に戻すために、街道沿いでは桜の記念植
樹がおこなわれています。



10

旅人の峠越えを支えた馬も一休み。
ここは疲れた馬に灸をすえて体力を回
復させていた治療所跡です。



11

源太桜に到着です。

季節折々の美しい景色を楽しむ
ことができます。
あなたが訪れる季節には、どの
ような桜の木をみることができ
るのでしょうか。楽しみですね。



源太桜は、貞享4年（1687年）に松山藩代官矢野五郎左衛門、また
の名を源太左衛門が四人を使って8140株の桜を植えたことにはじまり
ます。四人達は植樹と水汲みの苦勞に堪えかねて、
「桜三里は源太の位置き、花は咲くとも実はなるな」と歌いました。
それから中山越えを「桜三里」と呼ぶようになりました。

古道を歩いて 源太桜に会いに行こう

この先に少し足を延ばしてみましょう。12

ここでは、中山から田桑地区に渡るた
めに屋根付き橋の「曙橋」が大正初期ま
でかけられていました。



13

中山川の逆調整池の堰堤を渡ると、
管理用の素掘りのトンネルにたどり着きます。
中は真っ暗ですが、入口と出口に照明のス
イッチがあります。



入口で照明をつ
けたら、出口で消
しましょう。

14

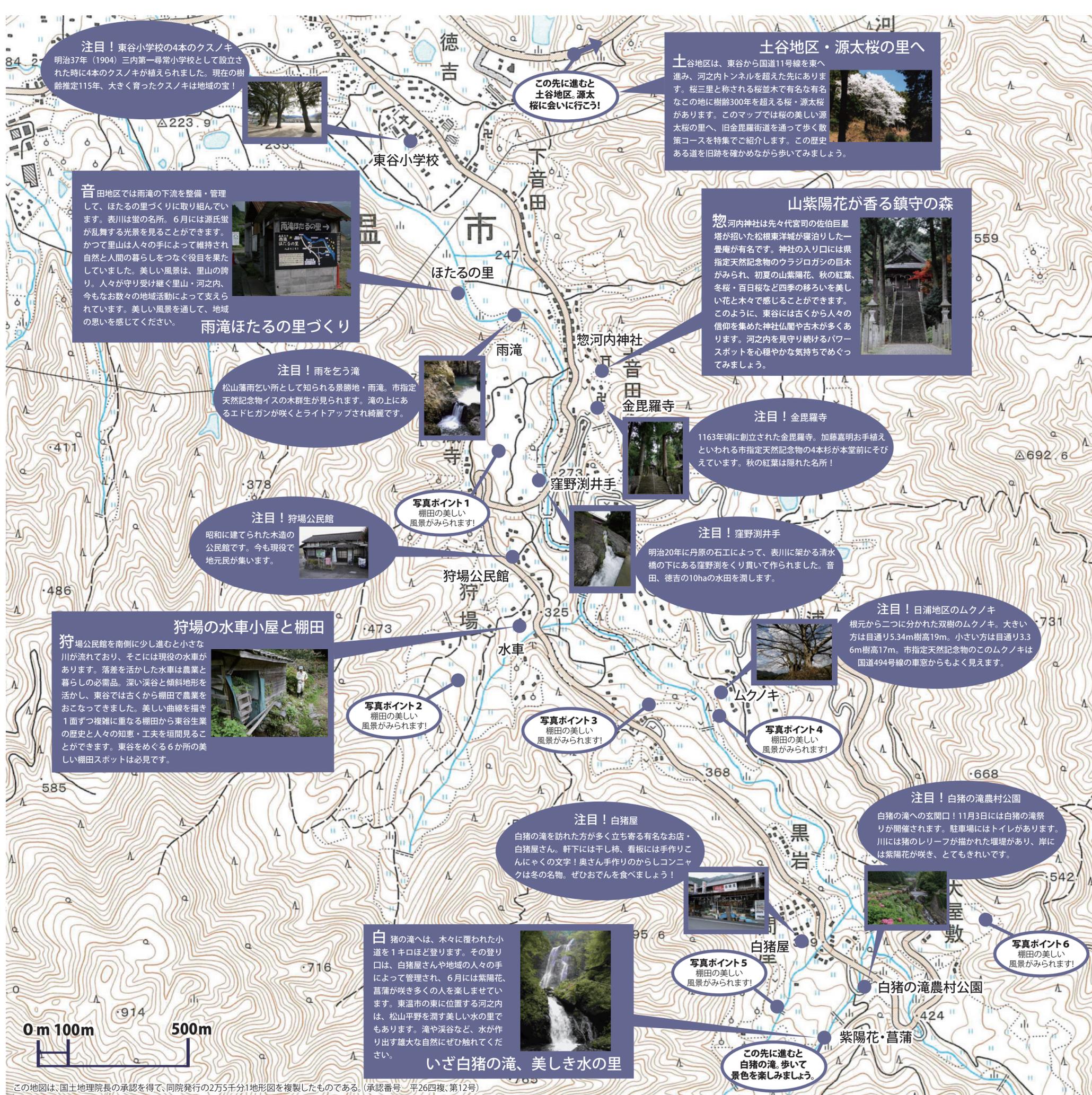
馬菩提也地蔵が静かにたたずん
でいます。昔、馬を数珠つなぎにして追っ
ていたところ、1頭が川に流されたこと
で次々と馬がまきこまれて死んでしま
いました。その後ここを通ると馬の鈴が聞こえる
といわれ、馬の供養のために建てられたも
のと伝えられています。



いかがでしたか。
東温市には金毘羅街道をはじめ
歴史ある道がたくさんあります。
ぜひ自分の足で歩いて
歴史をたどってみましょう。

東温市 かわのうち MAP

表川は重信川の支流のひとつ。皿ヶ峰連邦に深い渓谷を形作り、豊かな木々や花、人々の暮らしや農業を支えてきました。市街地を離れ、表川に沿って渓谷を登れば、そこは美しい棚田が広がる神秘の里。河之内の誇れる文化や歴史を、ひとつひとつ確かめながら、白猪の滝を目指しましょう。



表川が刻む雄大な渓谷、人の手が作り出す美しい棚田、東温市河之内には誇れる資源があふれています。ここ河之内では4つのテーマからぜひ散策しましょう。

「山紫陽花が香る鎮守の森」に代表されるように、河之内には古い神社仏閣、人々の信仰を集める古木が多くあります。数々の古木、白猪の滝に代表される自然美は「美しき水の里」ならでは。人々はこのような自然と長い時間をかけて向かい合い生業と暮らしを成り立たせ、人里を作りました。「狩場の水車小屋と河之内に広がる棚田」を見ると、その歴史の一旦を垣間見ることができます。

そして、これらは今もなお地域の人々によって守られています。「雨滝ほたるの里づくり」や棚田での米作りの活動、山道の保全など多くの活動によって河之内は守り受け継がれています。

これらのテーマから河之内をまわったら、次はぜひ土谷地区へ。歴史ある古道を通り樹齢300年の源太桜に会いに行きましょう。

雄大な水滝 神秘の森 河之内